

サンフランシスコ市における慰安婦の碑または像の設置と女性と少女の人身取引をやめるようコミュニティに教育させることを支持する決議

大半の国際的歴史研究家によると、「慰安婦」とは、1930年代から第二次世界大戦にわたる植民地期と戦時に占領されたアジア・太平洋諸島で日本帝国軍に拉致されて、強制的に性的奴隷にされた20万人の女性と少女を婉曲的に表すものである。

アジア諸国の侵入と占領が続いた15年間にわたって、日本帝国軍は占領国や植民地において筆舌に尽くしがたい大量性的暴行、大量殺人、極悪非道な拷問やその他残虐行為を含む戦争犯罪を犯し、その内容は文書で記述が残されている。

東京、南京、マニラ、横浜、ハバロフスクで行われた戦後の軍事裁判にて調査され戦争犯罪人として指定された数名の日本の軍事指導者のほとんどは起訴から逃れた。

2001年にサンフランシスコ市議会で可決された842-01号決議は日本政府に、日米安全保障条約の50周年に、日本の戦時残虐行為について完全に認めて謝罪し、武力侵略から生き延びた被害者に正当な補償を与えることを強く求めた。

2007年にアメリカ合衆国下院はマイク・ホンダ議員が提出した超党派の下院決議121号を可決し、この決議も日本帝国軍が若い女性を強制的に性的奴隷としたことを日本政府が正式的に認め、謝罪し、歴史的責任を負うことを求めるものである。

2013年にサンフランシスコ市議会が218-13号決議を可決し、第二次世界大戦中の性的奴隷制度を否定する日本を非難し、「慰安婦」に対する正義を全うするよう求めた。

2015年は第二次世界大戦（1941～1945）と太平洋戦争（1931～1945）の終結及び、日本帝国主義と軍国主義が連合国側に敗れた70周年の年である。

カリフォルニア州のグレンデール市とロアート・パーク市、ニューヨーク州のロングアイランド島、ニュージャージー州のパラセイズ・パーク区とユニオン・シティ市、バージニア州のフェアファックス市、ミシガン州のミシガン・シティ市を含むアメリカ合衆国における数都市は既に太平洋戦争時の日本占領下の「慰安婦」を祈念するために慰安婦の碑を設置している。

他国において女性は被害に遭っているが、日本帝国軍が起こした行動を決して許すことにはならない。

現在2090万人もの人身取引の被害者が世界中におり、そのうちの55%は女性と少女である。強制労働や人身取引は世界中で1500億ドルの犯罪産業となっている。

サンフランシスコもこの問題から免れず、港、空港、産業の発展や移民の増加という背景のもと、人身取引の目的地と考えられている。

これらの被害について学び、教えることはサンフランシスコを始め世界中の国々で起きている現代の人身取引の流行を止める助けになる。

第二次世界大戦時に 12 万人も大量に強制収容所に監禁され、他のコミュニティと共に差別を受けた日系アメリカ人コミュニティのリーダー達は、過去数十年にわたって、幅広いアジア・太平洋諸島系住民コミュニティと緊密に連携し、連携強化や信頼関係、相互理解の構築、及び公民権と社会正義のためのコミュニティ形成に努めている。

サンフランシスコは移民やその子孫の多い都市であり、その多くはアジア・太平洋諸国にルーツがあり、日本の過去の性的奴隷制度を直接又は間接的に体験している。

市の部署とサンフランシスコ統合学区は、「慰安婦」、現代の人身取引制度、女性と少女に対する暴力と虐待を終わらせる取り組みについてコミュニティに教育する他の機会を検討している。

移民コミュニティ、女性活動団体、人権団体は、これらの少女や女性の窮地や苦しみが忘れられることのないよう、歴史から消し去られることのないように、慰安婦及び、日本軍による数百万人の戦争被害者のために、サンフランシスコで記念碑を設置することを目指して連携して活動している。

次の決議を求める：サンフランシスコ市機関がコミュニティ団体と連携して、記念碑を設計し設置すること。

更に、次の決議を求める：第二次世界大戦終戦 70 周年のこの年に、性的奴隷として測りがたい苦痛と屈辱に苦しんだ少女と女性を祈念し、また、後々の世代が追悼、反省、悔恨、償いができる神聖な場所として、サンフランシスコ市議会が公共的な記念碑の設置に強い支持を表明すること。